

教えてください
**あなたの
移住物語**

移住のきっかけは何ですか
飯舘村の住み心地はいかがですか

今年の春から夏にかけて、村で暮らし始めた4人の人に、話を聞きました。
4つの移住ストーリーは、きっかけも、村との出会いも、人それぞれ。
移住者の皆さんが新しい視点で見つめる「村のよさ」も、何だか新鮮です。

**「来ちゃった」と笑っちゃう
しなやかな感性を
機動力に**

夫と共にアメリカに渡り、一男一女を育てながらフラワーアレンジメントを学び、カリフォルニアで13年間、生花店を営みました。「そろそろ日本で暮らしたい」。業界誌のデザインコンテストで全米1位を獲得したことも節目と感じられました。34年ぶりでしかも単身での帰国。「周りは驚くし、家族は迷惑かも知れませんが」「自然な気持ちの変化だったと言います。飯舘との出会

いは、移住先を相談した恩師からの情報。「私の記憶に残る、古き良き日本」と重なって」。下見に訪れた村営住宅は、2階から見ると里山の風景が心に染みしました。

そして、復興拠点の道の駅で働く新しい日々が始まりました。応援を惜しまない家族や友人を村で迎えることも新鮮な喜びです。「ここで友達をつくりたい。そして家族の故郷にできたらいいですね」。



宇沢 千賀子さん 7月移住



訪ねてきた友人(右端)と高橋日出夫さん夫婦の花栽培を見学。「品質が素晴らしい!」



伊集院 博さん 6月移住



松塚地区に畑を借り、ソリダコの栽培に取り組んでいます

人にも伝えられれば。秋の出荷が終われば、冬が来る前に里帰り。春先には村に戻って、2年目は春季の出荷も目指します。「飛行機だからね、苦にならん」。

畜産や花の生産が盛んな島は、飯舘と似ている所があると言います。「人の交流が生まれて、農業も教え合えたらいいなあと思ってるよ」。

1700キロメートルをひとつ飛び
南の島との2地域居住
「一度きりの人生だもの」



ソリダコ

**大好きな自然と
のどかな景色と**

あたたかい村の人達に囲まれて

須賀川市出身の國分さんは、「食べることが大好き」な村の栄養士。小学生の時、愛読していた「給食便り」を給食センターの栄養士がつくっているのと知り、一途に現職を目指しました。そして就職試験の下見に訪れた飯舘村の、のどかな雰囲気と一目惚れ。「ここで、食から健康づくりに携われたら」と思い描いたそうです。

子ども園の給食献立をつくり、集会で健康講話を行い：栄養士になってからの約半年間はあつという間に過ぎました。「村の人のあたたかさを感じながらやっていて、昔ながらの食べ物を知っている人と若い人とが、日常的に話せる場所をつくられたらいいなと思っています」。まだ味わっていない飯舘牛の復活も楽しみにしているそうです。

國分 志保理さん 3月移住



大垣内 力雄さん 7月移住

若い頃は「渡り農業者」として全国を渡り歩いた北海道生まれの大垣内さん。自然農法提唱者の故・福岡正信さんに師事していた時期もあります。「百姓が好きなんです」。移住したこの地でも、生い茂った笹竹やクズの葉を刈って、「から畑をつくりました」。

「皆さんが野菜や苗を分けてくれて」。畑の周囲に挿し木したアジサイの芽吹きに感動、夕暮れ時には空の移ろいに見とれ：「何も無い所からつくる暮らしに、深い喜びを感じています」。

地区の作業や集会にも顔を出し、「がきさん」と呼ばれるようになりました。「村とご縁をいただいた。助けられたり助けたり：自分ができる事は小さいが、ここで皆さんと共に生きていきたい」。

いただいたご縁に感謝
百姓を動かすのは
「感動」なんです

移住物語は、移住定住のしおり「までいな暮らしへの誘い」の中でも紹介しています。
新しい村づくりを共に歩む仲間として、村民と移住者の皆さんの間に、より豊かな関係が築かれていきますよう。村も力を尽くしてサポートしていきます。